



SERVICE CLUB TO THE YMCA
名古屋 プラザ 〈月報〉
THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGOYA PLAZA



西日本区中部ホームページ・http://www.ys-chubu.jp/

2011年3月号

「主題」

- 国際会長 : 「心新たに立ち上がろう」
アジア地域会長 : 「心新たに立ち上がろう」
西日本区理事 : 「飛翔たとう ワイズスピリットを胸に」
中部部長 : 「ワイズはフェイス to フェイス！」(コミュニケーションは顔を見て声をかけて)
プラザクラブ会長 : 「とにかく楽しくやってみよう」
【EF・JMF=個人や、家族や、クラブなどでの色々なパッピーニュース・ラッキーニュースを記念して、ワイズダム発展のために献金しましょう。】

3月例会および今後の予定案内

【3月第1例会】

日時：3月3日(木)・18:30-
場所：ケンボー
東区東桜町2-15-27 TEL. 052-931-0271

会費：ゲスト 4,000円/人

内容：反省会

【3月第2例会】

日時：3月17日(木)・18:45-

場所：名古屋YMCA 会議室

内容：次月例会打合わせ

出席義務者：役員(島崎・櫛田・後藤)

4月担当者(島崎・後藤)

5月担当者(鈴木・高田)

【今後の予定】

1. 中部評議会

日時：3月21日(月・祝日)・13:30-

場所：名古屋YMCA 3F会議室

出席義務者：大島・櫛田・島崎

2. 4月第1例会

日時：4月7日(木) 18:45-

場所：名古屋YMCA 会議室

内容：卓話 講師：池田千晶氏(中日新聞記者、名古屋市庁訪)

3. 4月第2例会

日時：4月21日(木)・18:45-

場所：名古屋YMCA 会議室

内容：次月例会打合わせ

4. 5月第1例会

日時：5月12日(木)・18:45-

場所：名古屋YMCA 会議室

内容：未定

2月例会およびその他活動報告 (敬称略)

役 員	会 員 氏 名	出 席 者				
		1	2	①	②	③
	大島 孝三郎	○	○	○	○	
	大平 純市					
	小澤 幸男	○				
書記	櫛田 守隆	○	○	○	○	
会計	後藤 猛	○	○			
会長	島崎 正剛	○	○		○	
直前会長	鈴木 誉三	○	○		○	
	高田 廣	○	○		○	
連絡主事	万福寺 昭美	○	○			
課外活動	①中部広報・HP 懇談会 2/12					
	②EMC シンポジウム 2/19					
	③					
出席率		(%)				88.9
1. ニコボックス		(円)				
2. オークション		(円)	16,400			
当月合計/累計		(円)	16,400	49,050		
4月号ブリテンの寄稿者は島崎さんです。 400字詰原稿用紙4-5枚を目安にお願いします。 Eメール moritaka_kushida@ybb.ne.jp						
5月号・大平 / 6月号・高田 / 7月号大島 8月号・後藤 / 9月号・櫛田 / 11月号・万福寺						

EF=Endowment Fund (信託基金)・JWF=Japan West Y's Men's Fund (西日本ワイズ基金)

2月第1例会(合同例会)報告

日時：2月10日(木)・18:45-20:45

場所：名古屋YMCA 3F会議室

東海、南山、グランパス、プラザのメンバー40人が集い、渋谷中部部長をお迎えして合同例会が開かれた。南山の近藤会長の点鐘、ワイズソング、東海の浅野さんによるお祈りに続いて部長の挨拶があった。



(積み上げられた出品物を吟味しながら値を付ける鈴木さん)

『今期の部長主題を「ワイズはフェイス to フェイス」とし、副題を「顔を合わせ、声をかけ」としました。まったく簡単で平凡な主題ですから、実行し易いと思っていましたが、言うは易く行なうは難い主題であることがわかりました。私は「例会で学べた喜び」と「メンバーの親睦」について改めて考えさせられました。「奉仕クラブとは何ぞや」のポイントの一つ、メンバー相互の親睦は「フェイスtoフェイス」(顔を見て、声をかけて)が原点ではないでしょうか。簡単のようで難しい「フェイス to フェイス」を、幸いにも中部のワイズメンバーやメネットメンバーが無意識のうちにも日頃の言動で実践していただいているのが目に見えるようで、中部全体が良い方向に動いていると自負し感謝しております。部長としても一つ、「仲間を増やす」こと、EMCであります。「仲間を増やす」は、1年ではなかなか難しく、これこそ継続が必要であります。各年度できっちりと目標を達成して、次の部長へ「たすき」をつなぎ「バトン」を渡していくことが大切です。任期はまだ半分残っておりますので、「仲間を増やす」ために皆が知恵を絞って各クラブ2名の目標を確実に達成しましょう。』(この部長挨拶の要旨は中部部報第1号と同じでしたので、部報を抜粋し転載いたしました)

本日のメインイベントオークションが始まった。4クラブ合同、自家製の切干大根から高価な電子辞書まで幅広い出品物100点余りが中央のテーブルに並べられる。東海の鈴木さんの軽妙な進行で次々に落札されて行く。「その値段では安すぎる」と思われる物もあるが、こんなところでも需要と供給の経済原則が優先されるのはやむを得まい。8時半に全てを売り切り終了した。合計金額は111,500円、出品者(100%)と購入者

(50%)のポイントを算出、その比率により各クラブに配分されるとのことです。

中部広報・ホームページ懇談会

日時：2月12日(土)・13:30-16:00

場所：金沢市・割烹「むら井」

参加者：渡辺(名古屋) 八木・長谷川(東海) 大島・櫛田(プラザ) 荒川(グランパス) 渋谷・伊藤・幸正・数澤(金沢) 平口(金沢犀川) 中原
広報主任



(パソコンなどIT機器を使っの懇談会は無駄はないが・・・)



(懇談会が終わった、同じ場所でカンパイ!!)

1. 基調報告

中原広報主任

- ・例会が第一、まず内への広報を行い会員同士の情報の共有が大切である。
- ・ワイズはYMCAと一体にも拘らずYMCAほど名を知られていない。もっと世間にPRすべきである。
- ・そのためには、新聞社へのアプローチや会員の勧誘に必要な道具、名刺、リーフレット、DVDやホームページの開設も有効である。

平口広報主査

- ・各クラブのホームページは、更新が遅い、メンバー数の在籍時点が不明、年間行事予定の未掲載など問題があり、仕様もバラバラなため統一性を持たせたい。なお、ホームページを開設していないクラブは、スタ

ートに向けて内部の機運を盛り上げていただきたい。

荒川 HP 委員長

・ホームページ委員会設立から約 10 年が経過、中部を含め個々に進めてきたクラブのホームページを修正する時期にある。

・たとえば、中部 HP はメイクアップし易くするために各クラブの予定などワイズメンバーが共有できる内容を掲載する。中部の「掲示板」は利用されていないので使い勝手を良くする。

長谷川次期中部部長

・次期は中西部のマンスリーや京都部の主査会などを参考に新しいことを進めたい。全ての活動に広報的な意識を持つ、そのためのツール、メンバーは全員ワイズの名刺を携帯する、クラブ単位にリーフレット作成、HP の開設をお願いする。

2. 討議(略)

3. 懇親会(略)

詳細な事項は後日報告予定。

2 月第 2 例会報告

日時：2 月 17 日（木）・18：45－20：00

場所：名古屋 YMCA 会議室

1. オークションのプラザ配分額・島崎

16,400 円、ニコボックスに算入する。

2. EMC シンポジウム参加者確認・島崎

5 人。

3. 今後の第 1 例会予定・島崎

(1) 3 月・(略・1 面参照)

(2) 4 月・4 月 7 日開催・池田千晶氏卓話

(3) 5 月・5 月 12 日開催・内容未定

4. 西日本区大会参加者確認・島崎

2 月 17 日現在 5 人。

5. 次期クラブ役員案・大島

(略)

6. 中部広報・ホームページ懇談会報告・櫛田

(略・2 面「中部広報・HP 懇談会」議事録参照)

7. ブリテンの記事について・櫛田

(1) お願いした原稿は締切日までに提出する。

(2) EMC シンポ、チャリランなどの各種イベントの記事は、メンバーが分担して書いてください。字数は原則として 800 字以内。

第 2 回 EMC シンポジウム報告

中部の第 2 回 EMC シンポジウムが四日市で 2 月 19 日（土）に開催されました。プラザからは、大島直前中部部長・櫛田広報主査代理・高田 EMC 担当・鈴木直前会長・島崎会長の 5 名で参加をしました。

幸い天候にも恵まれて近鉄名古屋駅で待ち合わせをし、途中蟹江駅で高田さんが合流されて会場の四日市



(渋谷部長 「フェイス to フェイス」とあいさつ)

総合会館に集合しました。四日市駅から会場へ向かう 10 分ほどの道すがらの商店街の土曜日というのに閑散とした様子やシャッターを降ろしている店舗の多さに地方都市の不況の現実を見て大変さを実感し、日本の将来の主要都市の風景とならないようにと祈らずにはいられませんでした。

参加人数が予想よりも多かったのか、会場は 30 名の口の字の席が壁いっぱい窮屈な状態で盛況な印象。金沢からも渋谷中部部長をはじめ 5 名の参加。プラザから 5 名は多かったかなと思いつつ、14 時に開会点鐘。下村 EMC 主査の司会で会議は進行。新山西日本区 EMC 事業主任の講話のなかでクラブの現状を魚体になぞらえ、頭が設立メンバーかそれに比する経歴、胴体の中堅、尾が新入メンバーということで、それぞれのクラブの現状を会長が説明。活発な EMC 活動で成果を上げている四日市ワイズは理想的な体型。商店街の印象とは違い、力強く前進するクラブの熱気を受ける。新山主任の在籍する京都トップスの 13 名にまでメンバーが減少して今日のメンバーにまで増やした努力の話を聞く

各クラブ会長からの現状報告を終えて、恒例の集合記念写真を撮って終わり、懇親会場へと移動する。

懇親会への参加は 21 名。居酒屋の味采は貸切状態で、次期中部部長の長谷川さんの乾杯の音頭でワイワイガヤガヤ。19 時 30 分ころにお開きとなる。14 時からの長時間の参加にお疲れ様でした。

(島崎 正剛)

この頃気になる事

この 2 ヶ月程の間、よく似た夢を何度も見るので少し気になり始めました。夢の内容は 15 年程前に相次いで亡くなった男性 2 人と私の 3 人が、コーヒーを飲みながら世の中の不景気や仕事の愚痴を 3 人で話している夢です。いつも夢の終わりごろにこの 2 人は死んでいるのになぜ一緒に話をしているのだろうと疑問に思う頃に夢から覚めます。

2 人とも亡くなる前は 10 人程の社員を抱えた中小

企業の社長さんで、私は2人の会社から商品を仕入れ販売するという仕事上のつながりで知り合い、20年ほどの間親しく取引をしていました。また彼ら2人も昔から同業者間での商品取引もあり旧知の間柄でした。Aさんが私より10歳、Bさんが7歳年上で2人とも自ら率先し働き会社を運営していくタイプの人間で、私より少し年上でしたが2人とはよく気が会い、私が夜7時過ぎ商品を仕入れに彼らの会社に行くと、2人ともいつも1人会社に残り仕事をしながら待っていてくれました。近くの喫茶店でコーヒーを飲みながら仕事や世間話をするのが楽しみで、1週間に1回は日を変えて2人の会社に行ったものです。

2人とも学卒後10年ほどサラリーマン経験の後苦労して会社を興し、その後30年程の間は2人の仕事への努力が報われ、彼らの会社は順調に伸びていきました。しかしバブルの時Aさんは事業拡大の為に新設の配送センターを作り、またBさんも丁度売りに出た会社の隣地を好機と考え購入し多額の借入れを作ってしまった。私もバブルの様な時代がまだまだ続くと思い、会社に必要な土地の購入を決め準備をしていましたが、相手からの上乗せ金額に納得出来ず幸いにも話は流れてしまいました。

2人が30年以上も苦労して築き上げてきた会社も、バブル崩壊後数年して資金繰りが厳しくなりBさんは自ら命を絶ち会社は倒産、Aさんも1年程後同じようにして自ら命を絶ってしまいました。2人とも一緒に苦労してきた社員への責任と古くからの取引先に多大な損害を与えた事を大変苦にしていたと聞いています。私もあの時土地の購入話が成立していたら今頃どうなっていたかわかりません。今思うと2人とも頑固な性格で、人に頭を下げるのが苦手なタイプでした。

Bさんが亡くなられた当日の午前中、私は彼の会社の近くで約束があり少し時間があつたので、彼と10分程立ち話をし、帰りがけに彼がコーヒーでも飲みに行こうかと誘ってくれましたが時間が無いのと言って別れました。私がよほど鈍感だったのか彼の言動に不自然さを感じませんでした、その後5～6時間して亡くなったそうです。その後Aさんと2、3回会いましたが、Bさんの話題は2人ともあまりせず仕事の話ばかりしていた覚えがあります。私も自分の会社の事で忙しくなり、仕入れ係を他の社員と変わりAさんと会う機会が少なくなりました。その後しばらくしてAさんが自ら命を絶ち壮絶な亡くなり方をした、と同業者から聞き、大変ショックを受けた覚えがあります。

時が過ぎ亡くなった2人の事を忘れかけていました。この頃何度も夢の中に出てくるのは私が年をとり昔の事を懐かしがっているのか、2人が俺たちの事も忘れるなよと言いに来ているのか、それともこちらの世界に来ないかと呼びにきているのか、今度は夢の中で2人に聞いてみたいと思っています。

(鈴木 馨三)

聖書の言葉

【イスラエルの人々はそれがなんであるか知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは主があなたがたの食物として賜るパンである。主が命じられるのはこうである、『あなたがたは、おのおのその食べるところにしたがってそれを集め、あなたがたの人数に従って、ひとり1オメルずつ、おのおのその天幕におるもののためにそれを取りなさい』と。(出エジプト記 16. 15)】

【先月号は、「人はパンのみに生きるに非ず」を説明するのに「マナ」のことを書いた。「マナ」とは、エジプトを脱出したモーセたちがシナイ半島の砂漠で食料が尽きたときに空から降ってきた食べ物のことで、まさに「天の恵み」である。マナは乾燥地帯の植物に付着した昆虫の分泌物が結晶したもの、と佐藤優氏(元外務省主任分析官)が「はじめての宗教論」で記しているが定説はない。また、1オメルは2、3リットルほどであるらしい。このマナを余分に集めて、先々のために保存しようとしても、虫がついて臭くなり食べられなくなった。人々はモーセの言葉どおり1日1人1オメルのルールに従わざるを得ない。要は『資源の配分は頭割りで平等に行われるのが原則であり、人々は必要以上に要求してはならなかった』。2008年1月号のブリテンに「タラント」のことを題材にした。話は、ある商人が3人の番頭の力量に応じて、5、2、1タラントを預けて旅に出て戻ったとき、5タラント、2タラントを渡された番頭は、それぞれ商売で儲けて倍にして返したが、主人を信じない番頭は土に埋めたままの1タラントを差し出した。主人は「それなら、私のお金を銀行に預けておくべきだった。そうしたら私は帰ってきて、利子と一緒に私の金を返してもらえたであろうに」という筋である。モーセの時代は「資産は平等」であったが、イエスの時代になると、銀行があり預金金利があることが普通に語られ、商人は1番頭に8タラントを預けないで3人に分散投資する、という抜け目なさも備えている。現代の金融資本が実物経済以上の金融資産、架空の富を築き上げる「カジノ資本主義」とやらに至るまで、「教え」は時の流れとともに変化してきたようだ。】

Z o o m ・給料泥棒って誰だ？

この頃新聞の政治欄を読んでいない。なんだかんだと政局を煽るメディアに愛想が尽きた。政治家の馬鹿な言動への小言はテレビの評論家？に任せればいい。抜けた16人も、「方便」も放って置きなさい。「知る権利」と文句があつたら、2面の隅に「先生たちの近況」欄でも設けて物議を醸した先生の記事を30字ほどにまとめれば済む。22日付日経新聞の経団連会長発言、「国會議員は給料泥棒」の困み記事は約300字でした。